

あなたとつながる長崎のまち

# ながさきの ふくし

3  
2021  
VOL.16



もくじ

2... **特集** 東日本大震災から10年

～いま、わたしたちは～

5... 寄付・寄贈のお礼

6... Mamiのスリランカ活動記  
就職氷河期世代の活動旅費助成

7... コロナ禍の「新しい」ボランティア活動づくりを応援！  
地域における総合相談・生活支援研修報告  
退職共済のご案内



子どもからお年寄り  
まで被災者交流やつ  
ぶいの場を通して住民同士が「支  
え合う」まち、福島県いわき市の今



発行：社会福祉法人長崎県社会福祉協議会

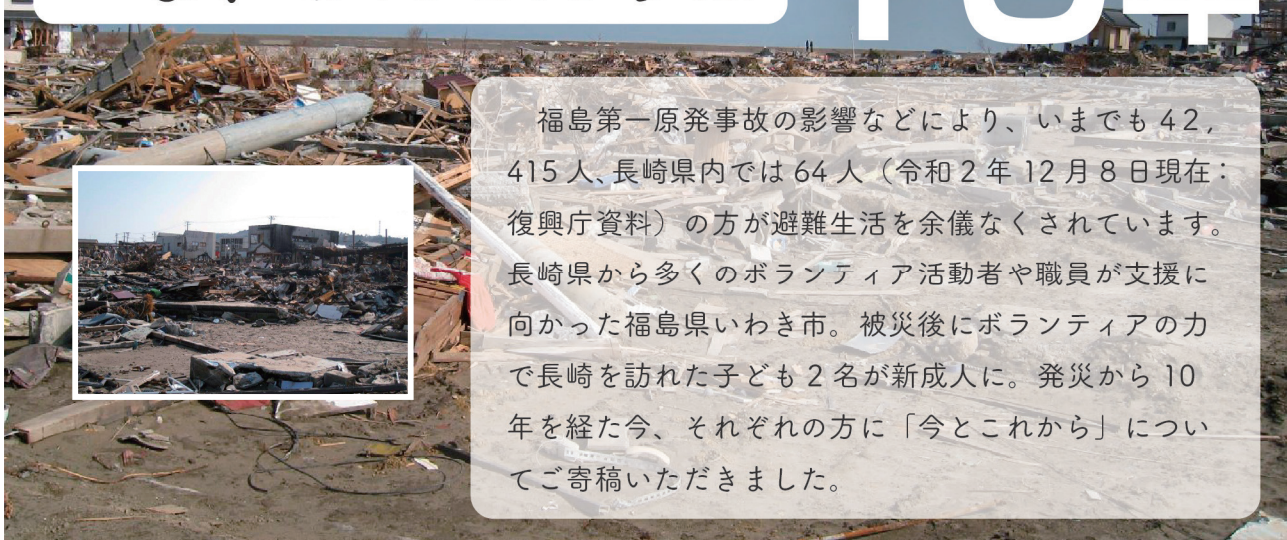
この広報誌は共同募金の配分を受けて発行しています

(※) 写真はそれぞれご提供いただいたものです。

# 東日本大震災から

いま、わたしたちは

# 10年



福島第一原発事故の影響などにより、いまでも42,415人、長崎県内では64人（令和2年12月8日現在：復興庁資料）の方が避難生活を余儀なくされています。長崎県から多くのボランティア活動者や職員が支援に向かった福島県いわき市。被災後にボランティアの力で長崎を訪れた子ども2名が新成人に。発災から10年を経た今、それぞれの方に「今とこれから」についてご寄稿いただきました。

令和3年2月13日の福島県沖を震源とする地震で被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げます。

## 東日本大震災から十年を迎えて 福島県いわき市の今とこれから

いわき市社会福祉協議会

ボランティア活動センター長  
鯨岡 姫代美さん

### ◇長崎の方など多くの人に支えられて

あの大地震から間もなく十年を迎えますが、当時を振り返ると、本市では地震と津波災害に加え原発事故災害により非常に混乱した状況が続いたことが思い起されます。

そのような状況の中、本会では、3月16日に「災害救援ボランティアセンター」を開設し、全国の社協職員やNPO・NGO等の支援団体をはじめ市内外の災害ボランティアの協力を得ながら、被災家屋の片づけや避難所の支援など、多岐にわたるボランティアニーズのコーディネートを行ってきました。

特に災害救援ボランティアセンターの運営にあたっては、震災の被災者や原発事故の避難者の生活の場所が避難所から仮設住宅等へと移るなかで、ボランティアニーズも生活支援ニーズへと変化し、

より被災者の生活に即した支援に取り組むため、長崎県内の社協職員をはじめとする九州ブロックの社協職員に支えられ無事に「復興支援ボランティアセンター」へ移行することができました。

### ◇支え合いの仕組みづくり

本会では震災の年から福島県社協の委託を受け、生活支援相談員（現在は1人、ピーク時は30人を配置し、被災者の見守りや安否確認に取り組むとともに、仮設住宅や災害公営住宅等の集会所を活用した交流会を開催し、市内外のボランティアの協力を得ながら入居者のコミュニティづくりや顔の見える関係の構築に努めています。

また、新たな支え合いの推進に向けて、市内13の地区協議会に生活支援コーディネーター（7名）と地域福祉コーディネーター（13名）を配置し、地域住民の身近な生活圏域となる行政区・自治会・小学校圏域を指定し、住民組織（自治会メンバーや民生委員・児童委員等で構成）となる協議体を設置し、生活課題や生活支援ニーズを把握し、住民と関係機関等が協働

しながら「支え合い」の仕組みづくりをすすめています。昨年12月末時点で、市内41行政区で支え合いの協議体が立ち上がり、地域で生活に不安を抱える人たちの見守りや声掛け、ゴミ出し等の生活支援サービスを実施しています。

今後も市内全域でこの「支え合い活動」の取り組みを進めていくとともに、ボランティア活動との有機的な連携を図り、身近な地域における高齢者をはじめ、子育て世代、子どもや障がいのある人などの社会参加の機会の確保に努めていきたいと考えています。

◆これから目指すこと

本会の基本である「誰もが住み慣れた地域で安全で安心して暮らし続けることができるまち いわき」の実現に向け、関係機関と連携を図りながら、役職員一丸となつて福祉のまちづくりに努めてまいります。

震災発生後の3月26日から8月26日の間、福島県福島市・田村市・いわき市に、長崎県内社協職員を派遣。延べ41名が災害救援ボランティアセンター・復興支援ボランティアセンターの運営支援、特例緊急小口貸付業務の支援を行いました。

東日本大震災から10年  
福島県いわき市

特別養護老人ホーム 翠祥園  
施設長 鈴木康久さん

◆施設の概要

社会福祉法人翠祥会が設置・経営する高齢者介護福祉施設は、平成5年に開設、太平洋を眼下に望む緑豊かな高台にあります。



▲4月7日の避難先（いわき市総合健康福祉施設）の様子。床に直置きした布団も。

特別養護老人ホーム翠祥園（定員85名）を母体とし、ショートステイ（定員15名）、デイサービスセンター（定員18名）、居宅介護支援センターを併設運営しています。

◆地震発生時の状況

2011年3月11日の地震により、施設の天井配管が大きく損傷し、漏水で施設内の至るところが水浸しになりました。施設が海面から30m以上の高台にあるため、続いて押し寄せた津波の直接的な被害は受けませんでした。

地震・津波の被害により、電気・水道・固定電話などのライフラインが全て寸断され、携帯電話・インターネットも接続不能な状態になりました。辛うじて、国道から施設に至る山沿いの道路が通行可能であったため、外部との連絡手段は確保できていました。

◆原発事故による避難指示

ライフラインが未だ復旧していない震災から3日目の朝になって、突然いわき市から原発事故による自主避難の指示が出ました。

当施設は福島第一原発から直線

で約27kmの位置にあります。

まもなく、市が手配した大型観光バス3台が地元消防団員数人と共に到着、利用者101人を全員乗車させ、当日出勤していた職員ともども、約20km離れた市の総合健康福祉施設に避難しました。

その後、国の避難指示区域の大幅な見直しがあり、いわき市全体が4月22日をもって避難などの対象区域から外されることになりました。5月12日・13日の2日間をかけて、大きな事故もなく2ヶ月ぶりに我が施設に戻ることができました。

◆経験から今後に向けて

いっつどのような形で起こるか予測できない非常事態にいかに対応するかは、施設の立地条件に大きく左右されます。風水害・土砂崩れ・津波などのほかに、原子力発電所からの距離が近い地域においては、原発事故も想定し備えるべきだと思えます。

高齢者の方が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、行政や地域の住民組織などとの常日頃からの連携の重要性が、いま我々に問われています。



▲ 2011年12月の活動(中央:三浦さん、左:芳賀さん)

10年前、被災地の状況を知った一人の女性会社員の呼びかけに、長崎のボランティア、行政、経済界、会社員、学生、市民活動団体等が協働して一つのプロジェクト「長崎で遊んでいかな〜プロジェクト」に取り組みました。

当プロジェクトは被災した宮城県気仙沼市の小学生20名を長崎に招待して思いっきり遊んでもらおうというもの。当時は二コースにも取り上げられました。

当時10歳で長崎に来た小学生は今年新成人になりました。その中に福祉の仕事に就いた方と、保育士を目指している方がいます。お二人に福祉の仕事に対する想いと将来についてお聞きしました。



三浦 愛さん

「ありがと〜と言ってもらいたい」そう思ってた介護の仕事を選びました。中学校の授業で介護施設を見学した時、職員さんの対応で利用者さんが「ありがと〜」と笑顔になりました。一緒にしたカードゲームが楽しかったな。

それから地元で貢献できて、周りの評価が高く職員の人間関係が良かった今の施設に就職しました。親も「愛がやるなら頑張ることができるんじゃない」と応援してくれました。今は毎日楽しく入浴ケアなどの仕事をしています。食事ケアの時に声をかけて食べてくれたらとても嬉しい!でも一番楽しいのは、利用者さんと話している時です。自分が知らない地域の昔話とかすごく面白いです。

来年度は3年目なので介護福祉士を目指します。将来の目標はケアマネジャーです。体力的に厳しくなってる現場の仕事ができなくなっても、ケアマネジャーならば介護の仕事に携わることができるからです。

二十歳になって目指すのは「心が広くて偏見がない」大人です。



芳賀 真優さん

小さい頃から保育士に憧れていて、「子どもの心に寄り添う保育士になりたい」と強く思ったのは、小学校四年生の時に経験した東日本大震災の時でした。

私は津波から逃げながら地元の中学校の体育館に避難しました。自宅は津波で全壊流出したので、体育館での避難生活が突然始まりました。そこは市内で二番目に避難者が多くて狭く、家族を失った方も多かったので子どもの声を嫌う方もいました。その時、保育士さんが子どもたちの心に寄り添う活動をしていて、私もホッとしました。この体験から保育士を目指そうと強く思いました。四月には保育士として働く夢が叶います。自然豊かな故郷、気仙沼で働ける喜びと、初めて働く不安がありますが、子どもや保護者に寄り添い、周りから信頼されるよう精いっぱい頑張りたいと思います。

多くの方の支援により、長崎で温かく迎えて頂いた事は一生の宝物です。皆さんのように温かく相手の気持ちが分かる大人になりたいと思います。

震災から10年を長崎で迎えて

私たち長崎県民は東日本大震災を体験していません。ですが、被災した方の「いま」を知ること、多くの知恵と経験を学ばせてもらえます。それは「私たちの目の前にいる」困っている人を助ける力になると思います。

そして被災された方々が記した未来は「目指すことができます」という希望を与えてくれます。お忙しい中、「ご執筆いただいた皆さん、本当にありがと〜ございます。福祉に関わる私たちは、長崎でこれからも頑張りたいと思います。」



ハート & アビリティー 豊かな未来の創造企業

## 株式会社 西海建設

〒850-0032 長崎市興善町2番8号  
 代表取締役社長 寺澤 孝憲  
 TEL 095-825-1413 FAX 095-822-0645  
<https://www.saikai-grp.com>

令和元年8月に『くるみん(子育てサポート企業)』認定企業に選ばれました

# 寄付・寄贈のお礼

♡寄付



**明治安田生命保険相互会社  
長崎支社 長崎北営業部 様**

新型コロナウイルス感染症拡大によって地域社会全体に大きな影響が生じていることをふまえ、「地元元気プロジェクト」の一環として地域福祉活動を支援するために、従業員と会社のマッチングによる地元支援「私の地元応援募金」を実施され、このたび本会に対してご寄付いただきました。



**長崎ヤクルト株式会社 様**

地域福祉への貢献を目的に、平成8年から毎年実施されている「チャリティヤクルト募金運動」。県内のヤクルトレディ259名が売り上げの一部を寄付するセットを販売された結果、募金総額は168万9,160円にのびりました。高齢者施設（望星荘、聖フランシスコ園、はまゆう、うぐいすの丘）及び本会へご寄付をいただきました。

● 第一三共グループ 社員一同 様

● 時津町職員組合 様  
● 特定非営利活動法人 長崎県介護支援専門員連絡協議会 様

♡寄贈

公益財団法人 川崎清老人福祉基金 様  
R3年1月26日

佐世保市社協、対馬市社協に在宅福祉活動用車両を寄贈していただきました。

同基金は、昭和57年の長崎大水害の際、全国から届けられた見舞金を基にして創設されました。これまで県内の在宅福祉の推進のために、56台の車両を寄贈されています。寄贈車両は、それぞれの地域で在宅福祉・地域福祉活動に活用させていただきます。

シエルエレクトロニクス株式会社 様

感染症対策「チーム大分」のメンバーとしてフェイスシールドをご寄贈いただきました。県内各市町村社協を通して地域福祉活動に活用させていただきます。

一般社団法人 生命保険協会長崎県協会様  
R3年2月3日

同協会加盟各社の社員の方から集まった募金を財源に、社会貢献活動の一環として波佐見町社協、長崎県身体障害者福祉協会連合会に福祉巡回車を、障害福祉サービス事業所「あゆみ園」「わかばの里」「つくもの里」にAEDを、児童養護施設「浦上養育院」に子どもたちが集まる部屋のカーペット等、児童心理治療施設「大村椿の森学園」に楽器等、特別養護老人ホーム「あいのうら」に感染症対策としての消毒液等を寄贈していただきました。

寄贈車両や物品は、県内の福祉サービスの向上に活用させていただきます。



▼問 長崎県社協 総務課

095-846-8600

第4回



Mamiのスリランカ活動記  
光輝く島の障害者支援

こんにちは！今回は前回に続き、地域住民と私の巡回先施設利用者（障害者）が参加したごみ拾い活動の様子やその後の変化についてお話しします。

主な活動場所はクロー・アイランド・ビーチで、そこを5つに分け、それぞれの範囲を利用者3〜4人とJICA隊員、KORICA隊員、地域住民の10人程度のグループで清掃しました。参加者は炎天下の中、こちらが予想していた以上に一生懸命、しかも楽しみながら活動していました。その中で嬉しかったのは、私が特別な配慮をしなくても利用者と地域住民がお互いにコミュニケーションを図っていたことです。

今回の交流の目的の一つは、地域住民の「障害者は何もできない」という認識の変化でしたが、この一度の活動では残念ながら大きな変化は見られませんでした。しかし、活動の様子を見て、このような交流を積み重ねることで、その障害者の持っている力を理解す



▲ごみ拾い活動の様子

ることに繋がり、将来的に彼らの社会参加に結び付くと実感しました。今回も含めて、スリランカでの活動で学んだことは、「一つのやり方にとらわれずに、広い視野を持つこと」の大切さです。日本のルール、働いている会社の考え方、今までのやり方が正しいと思いつい込まず、多くの情報を取り入れた上で最適な方法を選んでいくことが重要だと気付きました。

全4回の連載を、最後まで読んでいただきありがとうございます。これから長崎の福祉がより良くなるようお願いしつつ、ペンを置きたいと思います。

就職氷河期世代の活動旅費助成「就職して、自立したい。」

長崎若者サポートステーション（サポステ）では、就職氷河期世代の自立も応援しています。応援にあたりサポステが行う各種プログラムへの参加旅費を助成しています。

各種プログラムでは、リアルなグループワークを通じたコミュニケーションのトレーニングができたり、相談の機会が増えて自己分析が進んだりするなど就活の準備ができます。

助成対象は、自宅とサポステ間の往復交通費と宿泊費のうち、1人あたり月額2千円を超える費用。宿泊費は一泊素泊まり8,400円迄です。

▼利用に関するお問い合わせ先  
長崎若者サポートステーション  
095-823-8248

就職氷河期世代  
概ね大卒38〜49才、  
高卒34〜45才  
▼助成の例  
毎月の旅費 10,000円  
個人負担額 2,000円  
助成額 **8,000円**  
(ガソリン代、駐車場代は対象外)

自動車共済MAP (任意保険)

福祉にかかわる皆様だけの お得な割引制度

共済制度のメリット

- 非営利の共済制度
- 節約型のお得な掛金
- 早くて親切な事故処理
- 他保険会社等からの切替でも安心
  - ノンフリート等級(無事故割引等)、フリート優良割引などはそのまま引き継げます。

- 1 福祉車両割引 3%
  - 消費税非課税措置の対象となる福祉車両の契約の場合。
- 2 障害者割引 10%
  - ご本人(記名被共済者)、配偶者、同居のご親族のどなたかが障害者の認定を受けているご家庭の契約の場合。
- 3 福祉施設割引 10%
  - 社会福祉施設が所有・使用する自動車の契約の場合。
- 4 福祉施設職員割引 5%
  - 社会福祉施設に勤務する役員・従業員の契約の場合。



長崎県火災共済協同組合

長崎市桜町4-1 商工会館8F  
TEL095-822-9695

「新しい」ボランティア活動  
づくりを応援します！

県民の皆様にはボランティア活動の機会を提供するため、毎年夏にボランティアキャンペーンを実施しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で時期を変更して実施しました。

しかしながら、人が接触する活動は感染するおそれがあるため、ボランティア受入施設・団体数が昨年度の1/3に減少しました。これにより現在は、県民の皆様が活動する場を十分に確保できていません。

そこで本会は、施設・団体が取り組む「コロナ禍でもできる活動プログラムづくり」を支援しています。

非接触型のボランティアやリモートでのふれあい、ボランティアの受入方法など、施設・団体にとって「新しい」活動プログラムを一緒に作りたい場合は、ご相談ください。

▼問 長崎県社協

地域福祉・ボランティア課  
095-846-8618

地域共生社会の実現に向けて  
「地域における総合相談・生活  
支援研修」を開催 令和2年11月1日

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からオンライン形式で開催し、長崎県内の福祉事業所、社協、地域包括支援センターから36名の方が参加されました。

研修前半では、淑徳大学総合福祉学部准教授の山下興一郎先生に伴走型支援の重要性や支援者の心得についてご講義いただきました。

研修後半は、居宅介護支援事業者サンハイツの介護支援専門員山口あゆみさんから多重債務で困窮している事例を報告していただき、山下先生、山口さんを中心として事例検討を行いました。

昨年6月に社会福祉法が改正され、市町村において包括的な支援体制の構築が進められています。今回参加された皆様がこの研修で学んだことを糧にし、それぞれの地域でご活躍されることを祈念しています。

※本研修は、来年度も開催予定です。

▼問 095-846-8618

■ 退職給付手続きはお済みですか？

「社会福祉施設職員等退職手当共済制度」に加入している被共済職員が退職された場合、退職金を請求するときは「被共済職員退職届、退職手当金請求書」及び退職者の「本人確認書類」の提出が必要です。

また、合算制度を利用するときは「被共済職員退職届、合算制度利用申出書」の提出が必要です（いずれも1年未満の退職者は対象となりませんので、翌4月1日に作成する「掛金納付対象職員届」による報告のみで結構です）。例年、4月から5月にかけて手続きが集中するため、退職手当金の支給までに時間がかかります。不備や記入漏れがあると、さらに支給が遅れてしまいますのでご注意ください。

記入方法については、福祉医療機構のホームページ内のコンテンツ「退職手当共済事業」をご参照ください。

▼問い合わせ先

(独法) 福祉医療機構 退職共済課 ナビダイヤル  
☎ 0570-050-294

関係書類送付先

〒852-8555 長崎市茂里町3番24号  
長崎県社会福祉協議会 総務課

☎ 095-846-8600

※退職請求に関係する書類のみの送付先になります。その他の書類に関しては直接、福祉医療機構にお送りください。

▼提出前には、確認を

- 退職者本人および法人の印鑑の押印忘れはありませんか？
  - 振込先金融機関の通帳の表紙と見開きページの写を添付しましたか？
  - 「退職手当金請求書」内の「退職所得の受給に関する申告書 退職所得申告書」の“あなたの”欄に記入・押印し、“A”欄に記入しましたか？
  - 「個人番号」(マイナンバー)は正しく記入していますか？
  - 本人確認書類(個人番号確認書類・身元確認書類)の写は添付されていますか？
- ※結婚等で氏名が変更になっている場合、新姓の本人確認書類を添付してください。



社会福祉施設総合損害補償

# しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

## プラン1 施設業務の補償

(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、動産総合保険、費用・利益保険)

### 1 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間1年

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故に対応	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等の各種費用	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

▶年額保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円

基本補償(A型) 保険料	+	【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所：1,300円 通所：1,390円
--------------	---	---

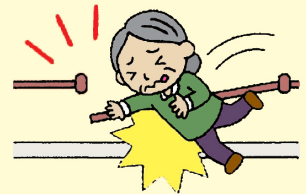
- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ● 医務室の医療事故補償
- オプション3 ● 看護師の賠償責任補償
- オプション4 ● クレーム対応サポート補償

### 2 個人情報漏えい対応補償 3 施設の什器・備品損害補償

## プラン2 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

- 1 入所型施設利用者の傷害事故補償
- 2 通所型施設利用者の傷害事故補償
- 3 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償  
施設送迎車に搭乗中のケガに対し、プラン2-1、2の傷害保険や自動車保険などとは関係なく補償



## プラン3 施設職員の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- 1 施設職員の労災上乗せ補償  
● オプション：使用者賠償責任補償
- 2 施設職員の傷害事故補償
- 3 施設職員の感染症罹患事故補償
- 4 雇用慣行賠償補償 NEW



## プラン4 社会福祉法人役員等の補償

(役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

保険期間1年

▶保険金額	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
1事故・期間中	5,000万円	1億円	3億円

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

### 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課 保険会社〉  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間：平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)  
損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

### 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
受付時間：平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)